

(125) 栃木県藤原町の大塩沢鉦山

前書き 大塩沢に沿って、4箇所鉦床があった。現時点では全体を確認できてはいない。しかし、2箇所、坑口跡を見つけた。他の鉦床跡もそのうちに確認したいと思っている。報告書は纏める時期が遅くなると、内容がおぼろげになってしまう。後日を期しての探査のための確かな資料としておくためにも、適宜にまとめ上げることにした。

参考文献(1)に、この鉦山について次のように記述がなされている。「・・・男鹿川支流の大塩沢流域に数カ所点在し、下流より熊居沢・大銅・白沢・沢落の4鉦床がある。また、沢落鉦床の南東方1km、二方鳥屋(にほとや)山の北麓にも1箇所見られ、宝来と称せられている。」これらの鉦床は主に銅を産出していたらしい。各鉦床の位置については、これだけの情報しか得られていない。が、中ノ沢鉦山の報告書に記載しているが、参考文献(2)「藤原町史」中に、芹沢鉦山、越路鉦山、中ノ沢鉦山、と共に、この「大塩沢鉦山」が、藤原の「主なる鉦山」として、記されていた。従って、それほど小さくは無い鉦山であろうと考え、探査を何回か行った。その結果、大塩沢の支流である熊居沢に幾つかの坑口跡を確認した。沢名と鉦床名が同じであること。参考文献(1)には、熊居沢鉦床の坑道について、解説もあり、その一つの坑道の解説文が、見つけた坑道の1つと瓜二つであった。これらより、熊居沢鉦床跡を確認できたと判断した。が、幾つかの坑道跡があるだけであり、ズリ跡はあるのであるが、何のめぼしい標本も採取できていない。じっくりと掘り返せば、見つけれられるのかもしれないが。

では、他の鉦床跡は? 文献に従えば、熊居沢鉦床より、大塩沢の上流にあるはずである。熊居沢出合いより少し上流、左岸に、石垣組のダムがあった。気になるので、この沢を登り上がった。3つ目のダムの付け根部分に、坑口跡と露天掘りらしい岩の切れ込み部分を見つけた。坑は試掘堀なのか奥行きはなかった。が、砂防ダムの設置で埋もれてしまったような気がしている。大銅鉦床跡なのかもしれない。文献(1)には、「・・・大銅鉦床は白沢支流の西岸にあり、白沢鉦床は大銅鉦床の南方300mに位し、・・・」の記述がある。「白沢支流」とは? これは「大塩沢の支流である白沢」と解釈すべきと思われる。砂防ダムの脇にあった坑口跡を「大銅鉦床」跡とするには、この白沢鉦床をとが確認できれば、確かとなる。

参考文献(1)には、五十里部落から大塩沢の上流に沿って、最初に熊居沢鉦床があると記されている。この熊居沢鉦床は確認できたと判断している。後掲している図3の旧地形図(発行大正年間)中で、二方鳥屋山の北西方向、標高1000mあたりに、鉦山記号がある。これは、参考文献(1)に従って、「宝来鉦床」と判断している。とすれば、沢落鉦床は、宝来鉦床のある沢の下流で、大塩沢本流と交差するあたりまでの所にあると推論できよう。

また、宝来鉦床も探査をしてみたい。登り上がるか、それとも二方鳥屋山頂あたりから下るか? 実は現在、二方鳥屋山頂あたりまで林道が延びている。その手前には何故か、広大なゴルフ場が広がっている。この経路が利用できそうなのである。

現地への経路は次の通りである。鬼怒川温泉から、川治温泉を通過し、五十里ダムを右手に見て、ダム湖に沿って、121号を北上していく。ダム上に架かっている橋を通り、121号はダム湖を左下に見て延びている。直に、比較的長い橋が目の前に現れる。大塩沢にかかっている大塩沢橋である。この橋を渡りきって直ぐ右側に、大塩沢に沿った林道が延びている。この林道に入っていく。なを、林道の途中で、完全に林道が崩れ落ちているので、オフロードバイクでも通行不可である。徒歩なら可。

2013年、2015年探査

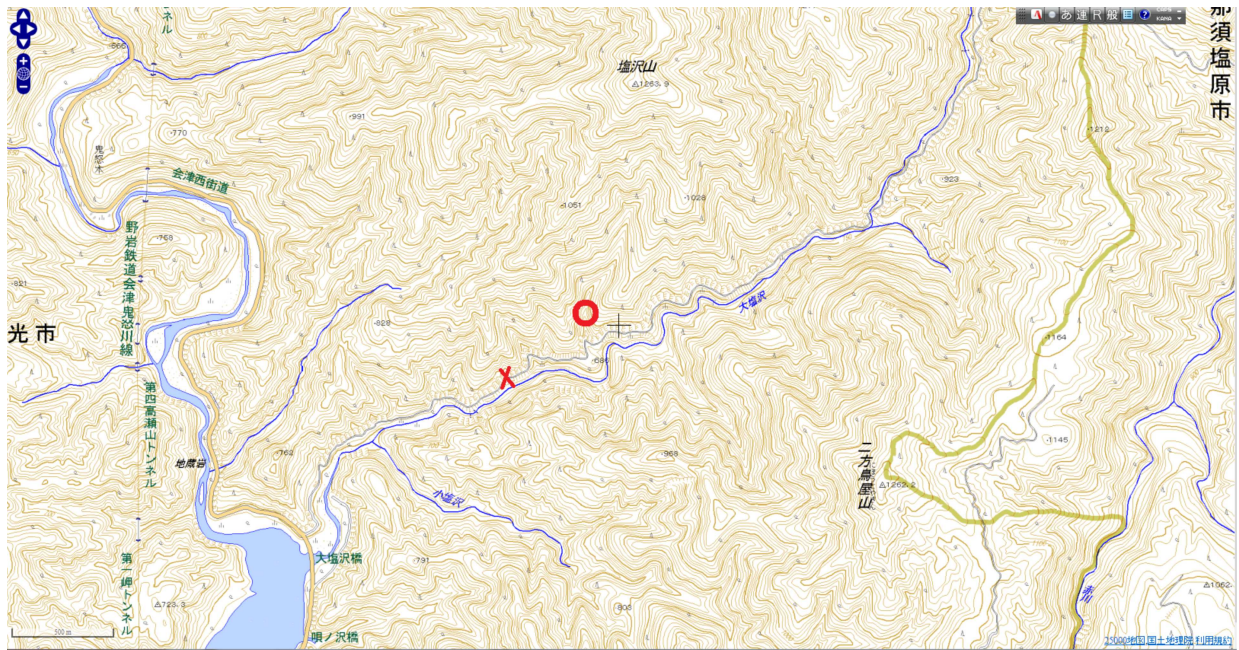


図1 国土地理院の地図サービスより複製掲載。赤丸のあたりが、確認した熊居沢鉱床跡である。徒歩で、大塩沢橋あたりから、現地までは1時間弱か。赤罰点は林道崩落の箇所である。この近傍までオフロード車なら登ってこられるが、途中適当な所から歩くことを勧める。

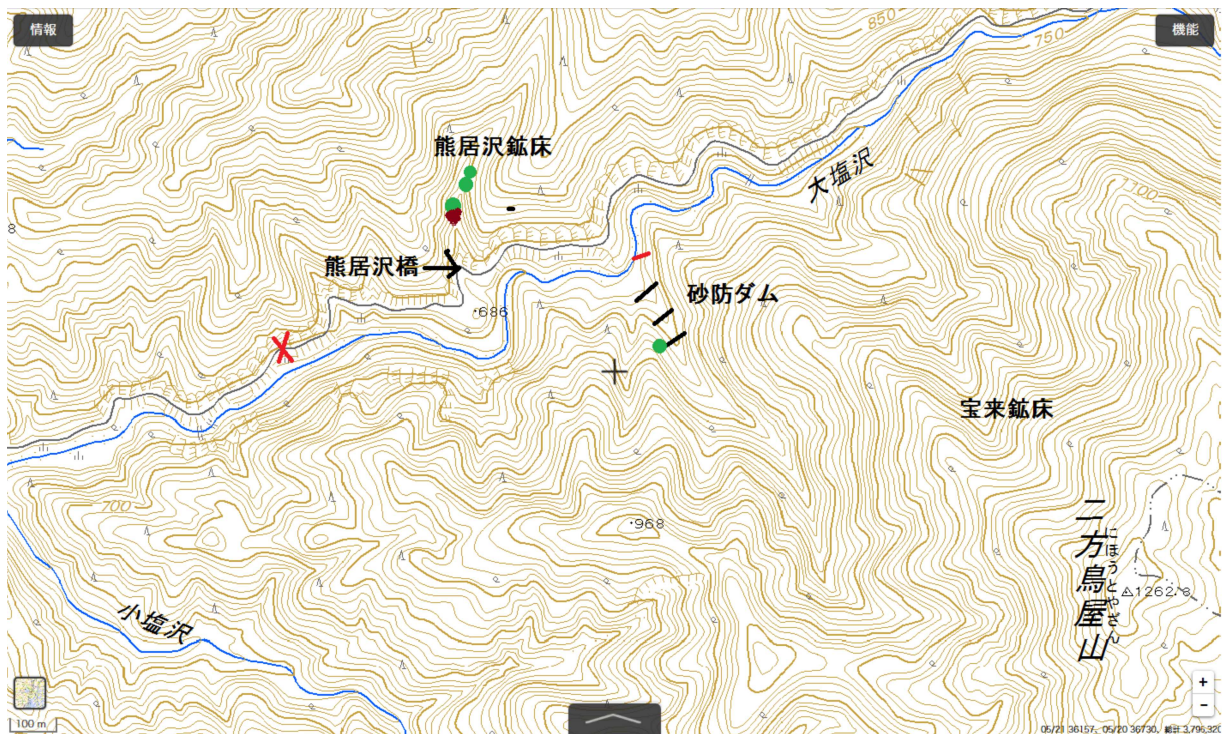


図2 図1の部分拡大図。林道を歩いて行くと、熊居沢橋に出会う。橋の欄干に銘版が残っている。沢の入口には、「クマイザワ」の名の入った看板もある。黄緑丸が坑口跡。下流側の坑口前にはズリがあるが、鉱物らしいのは見つけていない。熊居沢出合いより本流を少し上った大塩沢左岸に石垣組の砂防ダムがあった。3段目のダムがあり、3段目のダムの付け根に坑口跡があった。この沢の出合から本流少し上流、大凡10mの左岸河床に、細い幅の露頭鉱脈を見つけた。図中の赤線分である。写真11参照。二方鳥屋山の北西麓に書き込んだ「宝来鉱床」に位置は、図3による。

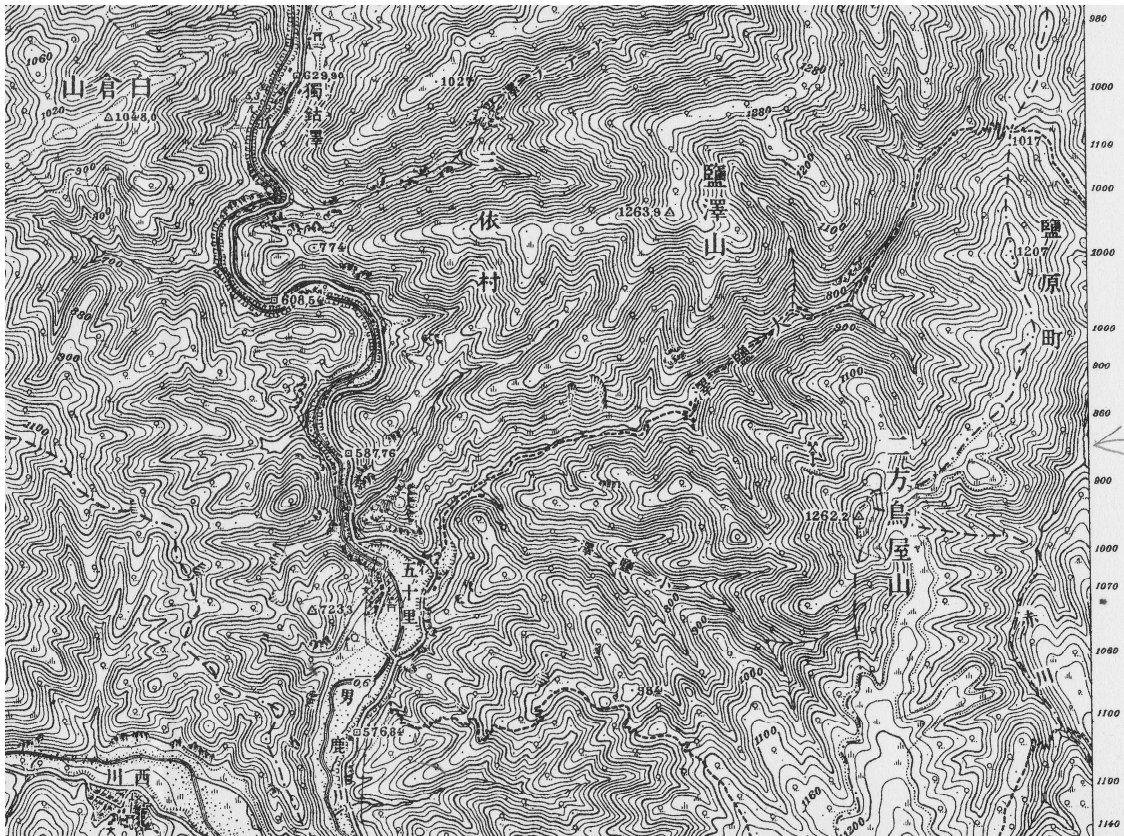


図3 大正時代発行の地形図。二方鳥屋山の北西山稜に鉦山記号が書き込まれている。宝来鉦床に違いない。何故か、他の3鉦床は記されていない。地形図に記されているので、この位置には信頼を置いてはいる。確かな位置であろう。ここまでどのようにしてたどり着こうか？

鉦山跡写真



写真1 大塩沢橋。左下はダム湖。この橋の先直ぐ右側に、林道がある。この林道に進んでいく。ゲートが開いていれば、林道は先に来るまで進んでいけるが、林道の整備・補修が行われていないので、荒廃が著しい。無理をしないで適当な所で車を置いて、徒歩で進んだ方がよい。車での訪問時、人員が複数ならば、1人に先道を歩かせ、林道の前方を確認しながら、車を進めるのがよいであろう。



写真2 熊居沢橋である。この沢を登って行く。それほど難しくない。軽い沢である。道らしいのも少しは残っている。



写真3 熊居沢橋の所で、熊居沢の上流に向かって、右側に立っていた看板。クマイザワの単語がある。



写真4 沢を歩くこと10分から20分で、右岸、沢の西側にあった坑口跡。坑口前にはズリがある。文献(1)によれば、この坑口の対面に、幾つかの坑口があったと記されている。が、対面は土砂の崩落で完全に遮蔽されてしまったようである。



写真5 写真4の坑口の中の様子。奥行き10m弱で行き止まりとなっていた。



写真6 写真4で示した坑口跡から、沢の少し上流、右岸にあった連結した2つの坑口跡。落葉などで埋もれてしまいそうである。草木が旺盛な時期には、それに隠されてしまうかもしれない。手前にある少し太い木が目印になるかも。



写真7 写真6で示した坑口の近接写真。埋まってしまいそうである。

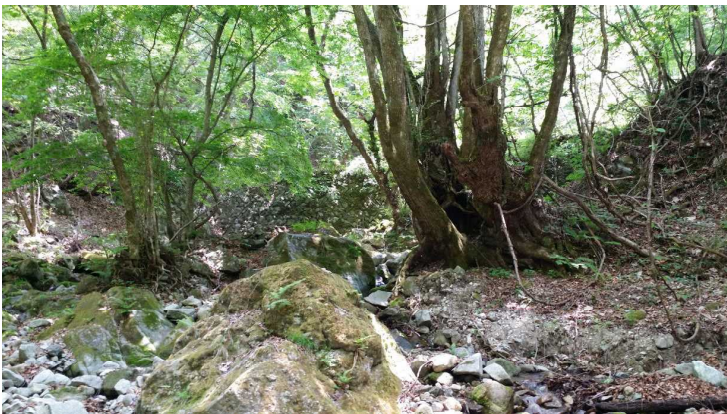


写真8 熊居沢出合いから大塩沢本流を少し上流で、左岸に沢があり、入口近傍に石垣組のダムがあった。鉾染状の転石を1個見つけた。この沢を登り上がった。

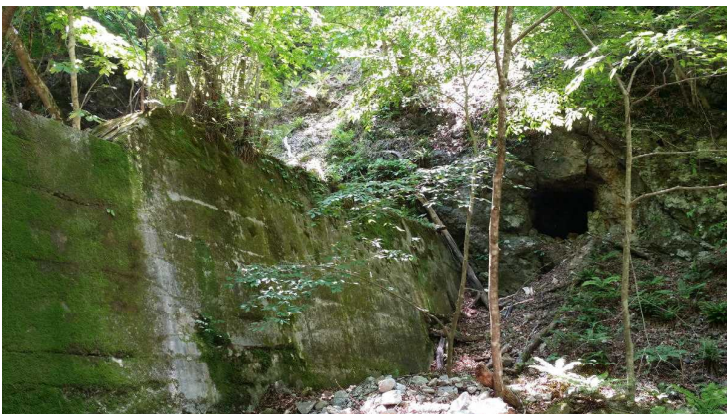


写真9 3つ目のダムの取り付け部に坑口跡を見つけた。



写真10 坑口から見た内部の様子。
奥行きは5mほど。試掘坑か。

鉱物写真



写真11 大塩沢本流の河床で見つけた
露頭鉱脈。左岸河床水準で見つけた。
幅10cm弱。

参考文献

- (1) 「栃木県塩谷郡三依・塩原地区地下資源調査報告」、梅本、郷原、地質調査所、1953年。
- (2) 「藤原町史 通史編」、藤原町、1983年。